

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「共に歩む」を念頭に、毎朝の理念唱和から一日が始まる様にしています。	法人の理念「共に歩む」に基づいたコンセプト、施設目標が掲げられている。朝礼時に唱和をすることで職員は互いに理解を深めている。理念にそぐわない言動が見られた時はその都度、管理者が個別に面談している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中の一員である事を忘れず、年二回の総合防災訓練時には、地域に呼び掛けして訓練への参加を頂いています。施設行事の開催時には、地域への招待を行っています。(今年は新型コロナウイルスもあり地域の方お呼びなしです)	自治会に加入している。総合防災訓練や夏祭り、花火大会等、施設行事には地域の方の参加を呼びかけ交流を深める機会としている。本年はコロナ禍により開催できず、ボランティアの来訪も中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	組織として認知症コーディネーターを育成しており、必要に応じて活動が出来る体制があります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回/年4回の「運営推進会議」を開催し、介護業界を取り巻く情勢や新たな要望、同行の集約にしています。改善点等の提案には、速やかに対応する事が可能です。(今年は新型コロナウイルスの為書面にて開催のみです)	定期的に水曜日から木曜日の午後開催している。利用者、家族代表、区長、民生委員、介護相談員、市介護福祉課職員、ホーム関係者が出席して状況報告を基に活発に意見交換が行われている。出された意見や提案は真摯に受け止め業務に活かすようにしている。本年はコロナ禍で集まれないために書面による開催となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡谷市介護相談専門員様2名のご訪問を月2回程年間を通して行い、ご利用者の想いの吸い上げに役立っています。(新型コロナウイルスの為現状訪問控えてもらっています)	介護相談員2名が月2回来訪し、利用者と話をしたり様子を見て結果を報告してくれるのでケアに活かしている。介護認定更新は調査員に様子を知らせるなど協力している。市として介護事業所の連絡協議会やグループホーム独自の連絡会があり、情報交換や話し合いの場となっている。本年はコロナ禍のため開催されず、介護相談員の来訪も控えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、平成会全体で指針があり、年2回のチェックシートの作成、身体拘束廃止委員会の設置により、毎月全体会議上での報告を行っています。	日中も玄関は安全のために家族の了解を得て施錠している。法人として身体拘束に関する指針があり、身体拘束廃止委員会が設置されて年2回チェックシートにより点検し確認している。家族の了解を得て安全のために、数名の方がセンサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会等で何が身体拘束であるのかを伝え、研修会にてということが虐待か職員間にて共有しています。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を中心に、申し送り等にて話題とし、意識付けを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回面接時から、当施設のケアが、法人理念に基づいて行われている事の説明を念入りにおこない、同意を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の活用、全体会議での周知等、情報共有を行っています。	殆どの方が自分の思いを言葉や態度で伝えることができています。食べ物に関することから話を進めると会話が弾み利用者の要望がくみ取り易いという。家族の来訪は週1回から年に1~2回と様々であるが来訪時には様子を伝え要望等を伺うようにしている。本年はコロナ禍のため家族との面会ができずいたが、10月中旬から予約制でアクリル板越しに15分間面会できるようになった。毎月発行のさわらび便りと共に利用者一人ひとりの様子を担当職員が報告書にして丁寧にお知らせすることで家族との意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の活用、個々との面談等で、想いの吸い上げを行っています。グループホーム会議等での議題提起できる環境が整っています。	毎月1回、職員全体会議を実施している。内容や出欠状況にあわせて午前あるいは午後開催している。法人の方針や各委員会からの報告があり、活発に意見交換をしている。欠席する時は事前に意見を出したり、会議録で内容を確認している。職員は何らかの委員会に属し課題に取り組んでいる。目標管理制度はないが半年に1回個別面談があり、意見や提案を管理者に聞いてもらう機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人規定に則り、給与、福利厚生に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、専門ケア研修への積極的参加促しを行い、スキルアップを提唱しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修への参加により、他職種との交流を目指し知識の修得を積極的に行えるよう支援しています。(今年は新型コロナウイルスの為事業所間の連絡会が開催がほぼありません)		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接より関係づくりに取り組んでおり、わからない部分については丁寧に対応に取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、ご本人が求めているニーズの把握には、細やかに聴き取りを行うように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成において、要となるニーズを見極め、展開を想像してのケアを提唱しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人、想いを共有できる様提言し、実践に繋げる努力を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様への礼を尽くし、ご家族の近況等を交えての会話に努め、共に介護の実践者であるように感じて頂けるよう努力しております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初期面談等での集約された情報の中で、最もその人らしさを感じる物、人を大切に関係づくりに心がけています。	知人と面会したり、電話・手紙を頂くなど、今までのつながりが継続できるように支援している。馴染みのスーパーへの買い物も楽しみにしているが、本年は外出・面会が制限されているため職員ができるだけ利用者に寄り添って話しかけるなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性、個別性を大切に、ケアすることに努めています。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ニーズに対応し、常に何時までも「ご縁」がある関係として関わりを持つ環境があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを重んじての対応に心がけています。	殆どの方は思いを伝えられる。言葉で伝えることが困難な方は表情や動作から感じ取っている。利用者の隣に座って話をする中から思いをくみ取ったり、入浴・排泄ケアの時につづやく一言を大切にしている。情報は申し送りや介護記録により職員間で共有し利用者本位のケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報からの生活歴には重きを置き、時代、時代の様そを学びに取り入れてケアに繋げる努力を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況の把握は毎日バイタル測定を行う中で「いつもと違う」に重きをおき、情報共有に心がけてケアを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ご利用者様に担当職員を設け、モニタリングへの積極参加を促しています。	職員はそれぞれが1～2名の利用者を担当している。職員全員から情報を得て3ヶ月に1回モニタリングを行い、居室担当職員やケアマネジャーを中心に計画の見直しを行っている。状態に変化が見られた時にはその都度、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	5W1Hを基本とし、ご本人の発する言葉を大切に書留められる記録とし、誰が見てもその方を想像できる記録を目指して努力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣施設からの協力を頂き、福祉用具等の準備等、柔軟に対応できる環境があります。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員を意識しながら、買い物、運動会参加等、機会がある事にできる限り参加をするスタンスがあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携訪問看護を活用し、適材適所の対応を行う事が可能です。	利用前のかかりつけ医を継続されている方は半数で、情報書を使用して家族または職員の付き添いで受診している。半数の方は協力病院内科医師の往診を月1回受けている。協力病院併設の訪問看護ステーションから毎週木曜日に看護師の訪問があり医療連携もとれている。職員は気になることをノートに記入しておく看護師が質問に答えてくれるので適切にケアに結び付けることができている。協力歯科医についてはコロナ禍で往診ができないため電話で相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々対応する介護職が、「目配り、気配り、心配り」を怠らないように指導し、情報共有、連携に繋げる努力を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	新情報共有シート等を活用しての支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人規定に基づき、グループホームの重度化指針を設け、契約時等に説明しています。	重要事項説明書に指針が明記されており、利用契約時や状態が変化した時などに家族に説明をし方針の共有化を図っている。協力病院と看護師は24時間対応可能で本人や家族の希望に沿って対応している。昨年2名の看取りを経験し、家族、病院、看護師、職員間の連絡や看取り体制を整えたという。チームとして方針を共有し悔いのないようにできるだけ支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	委員会による定期の研修会にて、緊急時に備えています。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の「総合防災訓練」その他「地震想定訓練」を実施し、ほぼ月1回のペースでの「ミニ防災訓練」を実施しています。有事の際に対して法人全体で取り組んでいます。	年2回、6・11月に「総合防災訓練」を行い、9月には市からの要請を受け「地震想定訓練」を実施し、また、法人全体で取り組むことでいざという時に備えている。利用者は職員と一緒に避難し決められた場所に集まり、地域の方に応援体制もお願いしている。2階フロアからの介護度の高い利用者の具体的な避難の仕方や平日の訓練で消防団の参加が難しいことなどの課題について検討している。食料品や水など、1週間分の備蓄も準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「介護は心」を忘れず、ケアの際に心を添えての対応を意識しております。	基本的には苗字に「さん」付けでお呼びしている。「介護は心」という基本を意識し個人を尊重した態度で接するようにしている。トイレ誘導時には「ちょっといいですか」など、言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけの介護にならないよう、想いの傾聴を重視してのケアを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	良好な関係づくりを意識し、想いを伝え易いコミュニケーションを意識して取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に日々対応し、ご家族様、ご本人様の嗜好、想いを取り入れての整容に心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員による献立表作成を行い、喜んで頂ける食事を追及しております。誕生日月の利用者様の希望を聞き取りメニューにしています。	全介助の方は若干名で、ミキサー食やトロミ食の方が数名で、あとの方は自力で普通食を摂取されている。かき込まないように見守りや一部介助を必要とする方もいるが、手作り食が利用者に好評を得ている。献立、食材発注は職員が交代で行い、誕生日には希望のメニューを取り入れている。お盆を拭くなどのお手伝いはできるが、調理に参加することは難しくなっている。ホットプレートでのホットケーキ作りでは生き生きとした表情でケーキを裏返す利用者もおり、できることをやっていただくように声掛けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量等、記録し確認できるシステムがあり、活用しています。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	病気予防の観点からも、口腔ケアには留意を図ってケアを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的には「排泄はトイレで」を念頭に、共通認識の中でケアを行っています。	3割の方は自立しており、全介助の方が若干名いる。他の方は声がけや誘導を含め何らかの介助を必要としている。布パンツの方は半数、オムツの方は若干名で、あとの方はリハビリパンツにパットを使用している。「排泄はトイレで」と職員間で共通の認識をし、排泄チェック表でパターンを把握し誘導したり、職員同士でも声を掛け合うなど、個別の支援に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事からのアプローチもあれば、連携訪問看護への相談、主治医への連携を行う環境が整っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務構成上、入浴日は定めがありますが、必ずご本人の希望を伺うスタンスがあります。	殆どの方が一部介助で週2日以上入浴している。介護度に応じて二人介助が必要な方や浴室を温めてシャワー浴で対応する方など一人ひとりにあわせて支援している。入浴を拒む方には毎日声がけをし、タイミングを見計らっている。季節に合わせてリング湯やゆず湯等、入浴を楽しむ工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別ケアを重視していますので、配慮する環境があります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医との連携の中で、薬の内容等を容易に聴ける環境もあり、法人内の研修の項目にもなっているため、共通認識とする環境があります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の見極めを行い、個々に適材適所を提供する環境があります。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節、個々の想い等もありますが、希望に添う姿勢があります。	年間計画を立て、いちご狩りやぶどう狩りに家族と共に出かけていたが、本年はコロナ禍のために中止している。散歩や買い物等の日常的な外出も減り夏祭り等もできなかったが、職員が計画を立て、ケーキ作りや焼き芋売りなどを楽しまれたという。ベランダやウッドデッキでの外気浴や職員と一緒にゴミ捨てをするなど外に出て気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いにより、一定額の持ち合わせについては許可するようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて対応する事が可能です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備委員会が、適切に対応し、職員が協力する環境があります。	フロアは広々として明るい。天井も高く窓も大きいので庭木の紅葉や諏訪湖を眺めることができ四季が感じられる。キッチンからリビング全体が見渡せ、食事の準備をしながら利用者の様子を見ることができ、また、話ができる造りとなっている。玄関、トイレ、床はきれいに掃除されて気持ちが良い。テレビの前には大きなソファが置かれ、全体として落ち着ける雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファのコーナーの設置があり、自由に活用頂けます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の説明の中で、個人の愛用品の持ち込みを推奨しております。	居室にはベッドや棚が利用者の好みに応じて配置されている。持ち込まれた写真などの思い出の品も飾られている。洗面台と押入れが備え付けられており、押入れが収納スペースとなっているのですっきりとして居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過度な設備は無く、自立支援を念頭にケアを行っております。		